

雲南病院だより



歯科口腔外科医長

こいけ たかし
小池 尚史

(9月1日付採用)

【資格】日本口腔外科学会専門医、歯科医師臨床研修指導医

2010年に福岡より島根に参りました。島根大学歯科口腔外科に入局後、歯科口腔外科と救命救急センター、福井大学麻酔科蘇生科、浜田医療センターにて研鑽を積んで参りました。

当院歯科口腔外科では地域の医療機関および院内他科からご紹介いただいた口腔外科疾患、手術前後の時期(周術期)における口腔ケア、放射線治療や抗がん剤治療を受ける患者さんの口腔ケアを中心に診療を行っております。

なお、一般的な歯科治療(虫歯や歯槽膿漏や義歯の治療など)は、かかりつけ歯科医院での治療をお願いしております。

雲南地区の皆様、口腔外科と口腔ケアを通じて、少しでも良い医療が提供できるよう努力する所存です。



地域ケア科医員

たけうち ひでゆき
竹内 秀維

(10月1日付採用)

鳥取県米子市出身です。システムエンジニアをしていましたが、青年海外協力隊でアフリカのマラウイ共和国に行ったことがきっかけで、医師をめざしました。2017年、鳥取大学医学部を卒業し、卒後臨床研修(小児科系プログラム)を修了しました。その後、総合診療専門医をめざし松江生協病院に勤務。10月から雲南市立病院地域ケア科に所属となりました。雲南のみなさんの健康のために頑張ります。よろしくお願ひします。

退任医師

掛合診療所 歯科口腔外科
たかはし たけひと
高橋 尊史

(8月31日付退職)

外科 成田 公昌
なりた きみまさ
整形外科 佐藤 匡哉
さとう まさや

(9月30日付退職)

糖尿病教室

9月18日、加茂交流センターにて、第2回糖尿病教室を加茂まちづくり協議会・雲南市との共催で行い、42人の参加がありました。まず、当院内科 服部修三医師が「糖尿病と生活習慣病」について講演しました。生活習慣病と動脈硬化症の繋がりについての話をし、二無(禁煙)二少(少酒 少食)三多(多動 多休 多接)という生活習慣病克服の極意について紹介しました。続いて、当院新田多智子管理栄養士が、朝食を含め三食バランスよく食べることの大切さなどを話しました。最後に当院 稲田奈津実理学療法士が運動の種類や効果などを話し、椅子を使って気軽にできる運動をみんな実践しました。

糖尿病予防・治療の基本は「食事と運動」です。話を聞かれた参加者から「話が具体的にわかりやすかった。今後の生活に役立てていきたいと思ひます」と感想をいただきました。

<今後の糖尿病教室の予定>

◎第3回 12月19日(木) 14時~16時
場所：雲南市役所 2階会議室
「糖尿病予防」 三宅仁美医師
検査技師、歯科衛生士の話もあります。

◎第4回 3月5日(木) 14時~16時
場所：雲南市立病院 4階大会議室
「骨粗鬆症」 伊達宏和医師
理学療法士、薬剤師の話もあります。



服部医師



新田管理栄養士



稲田理学療法士

暮らしを診る医師育成プロジェクト 「暮らし体験」

「暮らし体験」は雲南市大東町久野地区のご協力をいただき、2014年から行っています。農作業体験や地域作り活動に参加させていただき、地域の現状や文化・歴史などの特徴、生活様式や大切にしている思いなどを学ばせていただいています。

“地域医療に従事したい！病気だけではなく、暮らしもみることのできる医師になりたい！でも、何から始めたらいいの？”そんなはじめの一步を応援するための医師研修プログラムとして行っています。

9月25日、研修医2人が久野地区の三島さん宅にて、農業体験活動を通して地域の方と交流しました。稲刈りの時期で大変お忙しいなか温かく迎えてくださり、ミニトマトの収穫作業を丁寧に教えていただきました。当日は気温が高く長時間立つての作業に「トマトが店頭に並ぶまでに多くの時間と労力がかけられていることを知り、これまで何気なく食べていることにもっと感謝しながらいただくことができる」「すこし離れた山奥の雪深いところで、たくさんの方が豊かな暮らしを営み、私たちの生活を支える仕事をしてくださっていることを知った。私たち医療者もたくさんの方に支えられていることを改めて実感した」と、研修医は話しました。

体験を終えた2人は、「患者さんの暮らしの雰囲気がいまいちかぶやくくなった。患者さんの生活に思いを馳せることのできる医師になりたい」、「病院におられる患者さんだけでなく、地域の健康活動や疾患の予防策にも積極的に取り組みたい」と医療者としての決意を語りました。



トマトの収穫の様子



左から、研修医2人、お世話になった久野地区の三島さん、植田さん

こどもの研修会

9月24日、木次こども園の職員の方を対象に研修会を開催しました。

乳幼児期の心身の発達における大切なことを学びたいというご要望にお応えし、小児神経専門医である瀬島 斉 副院長が専門的な見地から話をさせていただきました。

小児の発育、小児・思春期の疾患、発達（運動発達・社会性の発達・こころの発達）を通して、発達症（発達障がい）や学習症（学習障がい）までを、具体的事例も交えながら説明しました。

「こころの育ち」の中で自我の形成が大切であること、その過程で保育士がどのように関わるかなど、日頃の業務に生かしていただけたら、と思います。



瀬島副院長



研修会の様子